



病院NEWS

no. 350
2013
08/01



The Hospital News.Faculty of Medicine Kagawa University



ささえる、つながる、リードする。
香川大学医学部附属病院
KAGAWA UNIVERSITY HOSPITAL

香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 千田 彰一

ロボット手術、はじまります!

泌尿器・副腎・腎移植外科 准教授 杉元 幹史

いい手術とは?

手術に望まれるもの、つまりいい手術とはどういうものでしょうか?それはもちろん正確であることです。その上さらに体への負担が少なければ少ないほど理想的であるといえるでしょう。術後の疼痛が少なく社会復帰も早い、そのような低侵襲手術が望まれるのは当然のことです。その代表的なものが腹腔鏡手術です。以前はお腹を切っていたような手術もいくつかの小さな穴をあけるだけ手術をすることが出来るようになり、現在では広く普及しています。われわれの泌尿器科でも、代表的な手術の8割以上をこの腹腔鏡手術で行っています。しかしこの腹腔鏡手術では視野がある程度制限される、あるいは手術道具(鉗子類)の動きの自由度が低いなどといった、どうしても技術だけではカバーしきれない弱点があります。

そこで登場したのがこれらの腹腔鏡手術の欠点を補い、手術の正確性と低侵襲性を高いレベルで実現させているロボット手術、ダヴィンチサージカルシステムです。

ロボット手術とは?(図1)

ロボット手術とはロボットアームという器械の腕を用いて腹腔鏡手術を行うものです。ロボット手術といってもロボットが行うのではなく、あくまで人間がロボットアームを操作して手術を行います。つまり術者の動きはロボットアームを通して、狭い体内で精密に再現されるのです。そのためこの手術は正確には「ロボット支援手術」と呼ばれます。



▼図1

ロボット手術の長所

●高解像度3次元立体画像

明るく拡大された画面で、通常の開腹手術では決して見る事の出来ない理想的な角度で術野を観察・展開することが出来ます。通常の腹腔鏡手術では2次元の画像を見ながら手術操作を行っていました。一方、このロボット手術では3次元画像を使用することで奥行きを感じながら手術を行うことが出来ます。どちらがより正確で安全な手術が行えるか?これは較べるまでもありません。

●まるで自分の手のような自然な操作感(図2)

ロボット手術では術者の指の動きを正確に再現するために特殊な道具を使います。自由な動きを可能にするための可動する箇所が多い多関節の器具です。これによってまるで自分の手のように、いや自分の手以上に自由に操作ができます。さらにロボットアームは3本ありますので、人の手よりも1本多い分格段に操作性が高まります。



▼図2

●手の震えを吸収してより緻密な操作が可能

人の手は生理的振戦といって必ずわずかに震えます。いわゆる“手ぶれ”です。細かな作業の際にはこのわずかな震えが障害になることがあります。ロボットはこのわずかな震えを吸収してくれるためより繊細な作業が可能となります。今までどうしようもなかった、人の手であるが故の欠点をカバーしてくれます。これもロボット手術の大きな長所の一つです。

●術者の負担も軽減

手術を行う医師はサージョンコンソールと呼ばれる器械の前に座り、患者に触れることなく遠隔操作で手術を行います。今までのように立ちっぱなしで無理な姿勢を長時間強いられることがないため、このロボット手術は患者のみならず医師の負担も大きく軽減してくれます。これも手術の質を高める大きな要素の一つでしょう。

このようにロボット手術には様々な長所があります。それらはすなわち手術時の出血量を減らし、手術の副作用軽減や術後の機能回復に有利に働きます。

どのような手術に使われるか?

現在わが国では2012年4月より前立腺がん手術にのみ保険適応となっております。ロボット先進国のアメリカではすでに前立腺がん手術の8割以上がロボット手術になっています。さらにロボット手術は前立腺がんのみならず腎臓、膀胱、胃、大腸、心臓血管、子宮の手術でも有用であることはわかっています。残念ながら現段階では前立腺がん以外の手術は保険外で行うしかありません。しかし今後はわが国でも保険適応が拡大されることでしょう。

今回、香川大学でもロボット手術が可能になり患者さんに多大な恩恵をもたらすものと確信しております。われわれも皆様にご満足いただけますよう日々精進して参りますのでよろしくお願いいたします。

感染症講座の仕事

感染症講座は昨年4月より香川大学の寄付講座として開講され、スタッフは2名でコンサルテーションを中心に診療を行っております。

実は、感染症治療を専門とする感染症科という内科の分野はまだ新しく、県下で感染症科を持つ医療機関は当院のみです。開講当初は「コンサルテーションを受けます」と周知はしてみたものの相談件数も少なかったのですが、開講1年をへて徐々に院内からの相談件数も増加し、週に数名の新しい相談を頂き現在、1日平均10件程度の患者様のフォローをさせていただいております。

相談を受けさせていただくことが主な仕事ですが、感染症の重症例に早期にかかわらせていただくために、細菌検査室ともご相談の上、血液培養陽性例に関して治療の確認を行わせていただき、状況に応じては主治医の先生と相談させていただくようにしております。ありがたいことに、この相談を機会に新たなご相談をいただくことも増えてまいりました。

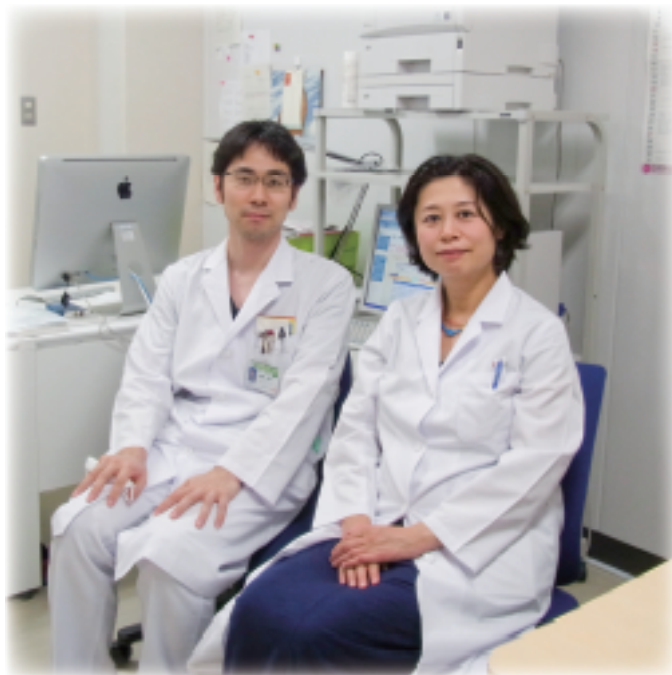
コンサルテーションに加え、院内感染管理チームにも参加させていただいております。本年1月からは抗菌剤の適正使用のラウンドにも参加させていただき、広域抗菌剤などの使用の適正化につとめさせていただいております。抗菌剤使用の適正使用は感染症の治療を適正に行うだけでなく、将来の耐性菌の出現を予防し、より安全な医療を行う事を目的としており、今後とも積極的に関わっていきたくと考えております。

大学の外での活動について

当科が香川県の寄付講座であることから、県下の感染症診療レベルの向上のために県下の病院にも赴き、感染症難治性症例のコンサルテーションを行わせていただいております。こちらでも徐々に相談していただく機会が増えてまいりました。施設によっては、研修医教育に関与させていただく事もあり、多くの研修医の先生に感染症に興味をもって頂き、感染症治療の質的向上に寄与いただきたいと考えております。

加えて本年の1月より、県下の医療従事者を対象として、感染症診療の知識普及のための勉強会を定期的で開催させて頂いております。香川県ではなじみの少ない臨床感染症学ですが、東京等では感染症科を有する病院も増加しております。感染症科でも熱帯病、HIV感染症、免疫不全者の感染症など特に専門性の高い分野に関しては専門家を招聘し、普段は得る事の出来ない知識を吸収する機会を提供することを目的としております。

また、昨年の鳥インフルエンザや現在問題となっている風疹の流行など、現職に就くまでは病院の医師として、感染患者の対応させていただく事が多かったのですが、こちらに赴任しましてからは、各病原体の感染予防を含めた対応に積極的に関わる様になって参りました。さらに、行政の意見を御伺いする機会も増え、現場で感じる専門医としての視点をお話しできる場が増えたように思います。HIV診療に関しましても、赴任後は前任の時とは異なり定期的に携わる機会は減りましたが、逆に予防や啓蒙の点で保健所や行政の活動に関わる機会を得る事も出来るようになりました。これからも今までの経験を生かし、多方面から感染症診療の向上に尽力できればと思っております。



(左から、渡邊先生、横田先生)

見えない障害～高次脳機能障害～

脳神経外科、高次脳機能障害外来診療部
准教授 河井 信行

交通事故にあつて頭を強くぶつけた、高いところから落ちて頭をぶつけた、くも膜下出血や脳梗塞などの脳卒中にかかった。元気に回復して退院したのに、以前と変わってしまい困っていることはありませんか？それは高次脳機能障害かもしれません。ひとの脳は、記憶、注意、遂行など認知に関連した重要な機能を持っています。この認知機能を「高次脳機能」とよび、霊長類の中でもひとのみで高度に発達した脳機能です。高次脳機能が障害されると、約束が守れない、しまったものの場所が分からない(記憶障害)、肝心なことを忘れる、同じ作業が長く続かない(注意障害)、仕事の段取りが出来ない(遂行機能障害)、些細なことでキレる(感情コントロール障害)などの症状が出現します。高次脳機能障害は、今までよく知られてこなかった障害で、一般のひとに高次脳機能障害という脳の障害があることが十分に知られておらず、その言動からトラブルの原因となることがしばしばあります。身体や言語障害などすぐに気付く障害がごく軽いことがあり、そのため外見からは障害があることが分かりにくく(見えない障害)、その言動から誤解を招くことが多くなります。また患者さんも障害の認識が無い方が多く、病院受診を嫌がり、診断や治療が遅れることがあります。入院生活や家庭生活などで自身の身の回りのことをするのはそれほど問題がなくても、学校、職場、外出先など社会的な場面で初めて問題が明らかとなることがあります。高次脳機能障害の診断には、MRIなどの画像検査で原因となった脳の異常を発見し、知能検査、記憶検査、注意機能検査、遂行機能検査などで、高次脳機能の中でどの機能がどの程度障害されているかを調べる必要があります。高次脳機能障害の患者さんは精神保健福祉手帳など種々の福祉制度や年金制度の利用が可能です。まずは、各県に設置されています高次脳機能障害相談窓口にご相談下さい。

毎日新聞「四国健康ナビ」 7/3(水)掲載

第7回七夕コンサートを開催

医事課

平成25年7月10日(水)18時30分から第7回七夕コンサートを開催しました。

4組の出演者が、入院患者さん達の気分転換を図ってくれました。

総勢7名でのフラダンス、三線音楽集団「さいさい」、「美きの音」のオカリナ・アンサンブル、「スナフキンのともだち」ハーモニカの音色とピアノの調べに酔ったあつという間のひとときでした。

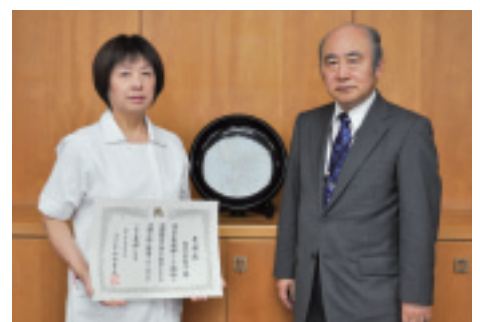


阪井看護部長の知事表彰について

総務課

5月8日に、「憲法記念日知事表彰」の表彰式が香川県庁で行われ、阪井看護部長が同賞を受賞されました。

これは、同氏の香川県における看護ケアの質の向上や看護職の職場環境改善への貢献が評価されたものです。この受賞を受けて、5月30日(木)に、千田病院長に受賞報告がありました。

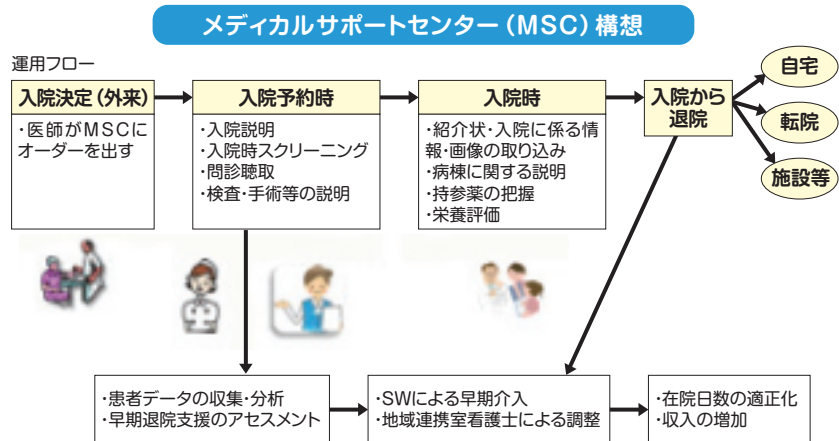


メディカルサポートセンターがオープンしました

地域連携室

2013年5月13日に当院メディカルサポートセンターは運用を開始しました。メディカルサポートセンターとは外来受診時から入院時及び退院後の生活全体を視野に入れた多職種協同のアプローチを行う所です。具体的には入院予約時に看護師より問診、身長体重測定を行いソーシャルワーカー(SW)からは入院の説明を行っています。また、入院当日は事務職員が持参薬数量をチェックし担当薬剤師を中心に薬剤のチェックを行っています。このシステムは稼働し始めたところですが病棟ではメディカルサポートセンター経由での入院を担当した看護師から「時間的余裕ができてベッドサイドのケアを十分に行えた」などの感想を聞いています。

現在は試験運用中であり脳神経外科で行われている血管造影検査と循環器・腎臓・脳卒中内科で行われる心臓カテーテル検査の入院を対象に行っています。場所は1階「お薬渡し口」前にあります。今後、対象を順次広げていく予定です。ご協力をよろしくお願い致します。



臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長 医薬品等臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記に示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

掲示終了日	研究課題名	研究責任者(所属・氏名)
H26.12.31	非小細胞肺癌・高悪性度腺の予後に関する研究	呼吸器・乳腺内分泌外科 助教 奥田 昌也
H26.12.31	ステロイド早期減量プロトコルの移植後骨粗鬆症への有効性に関する研究	循環器・腎臓・脳卒中内科 病院助教 西岡 聡
H26.12.31	正常高値アルブミン尿を有する高血圧合併腎移植ドナーの安全性に関する研究	循環器・腎臓・脳卒中内科 助教 祖父江 理
H26.12.31	腎移植後再発IgA 腎症リスク因子に関する検討	循環器・腎臓・脳卒中内科 助教 祖父江 理
H27.03.31	多施設間の統合退院サマリーデータベースの構築	医療情報部 教授 横井 英人
H29.03.31	がん治療における口腔合併症の観察研究	歯・顎・口腔外科 助教 大林 由美子
H30.03.31	造血幹細胞移植患者の移植前後における身体機能と移植合併症、栄養状態との関係	リハビリテーション部 理学療法士 田中 勝一
H30.03.31	低用量rasburicase(RSB)による高リスク腫瘍崩壊症候群(TLS)の適切なコントロール方法の確立	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科 教授 松永 卓也

イベントカレンダー H25.8月~9月 予定表

日時	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
8/17	10:00~17:00	医学部附属病院	手術体験セミナー	手術部	(087)891-2283
8/24	13:00~17:30	かがわ国際会議場	第4回 四国地区治験推進連絡協議会	治験管理センター	(087)891-2345
9/14	9:20~16:30	アルファあなふきホール 小ホール棟5階 多目的大会議室(玉藻)	第11回 緩和医療に関する集中セミナー-in香川	腫瘍センター	(087)891-2075

平成
26年度

看護職員募集

看護師・助産師
85名募集

受付期間
平成25年7月1日(月)~
平成26年1月14日(火)

試験日	応募締切日
7月20日(土)	7月 9日(火)
8月23日(金)	8月13日(火)
11月29日(金)	11月19日(火)
平成26年1月24日(金)	平成26年1月14日(火)

お問い合わせ先 087-891-2320(看護管理室)

編集委員会 (50音順)

石井(看護), 岩瀬(病棟),
岡田(総務), 鬼村(医事),
梶川(検査), 加藤(放射線),
唐木(外来), 白神(麻酔),
芳地(薬剤), 松本(看護),
安友(管理), 横井(情報),
〔委員長 千田病院長〕